

療養通所介護まごころ  
2018年運営推進会議 記録

1. 日 時 2018年2月20日（火）13:30-14:30

2. 出席者

氏名	構成区分	職名等
三木 秀信	地元住民代表	元御旅自治会会長
小野 彰之	知見を有する者	グループホーム鹿島の郷 管理者 療養通所介護まごころ 安全サービス提供管理委員会委員
廣田 雅子	知見を有する者	(株)まごころケア研究センター高砂 訪問看護ステーション管理者（看護師） 療養通所介護まごころ 安全サービス提供管理委員会委員
北野 実希	高砂市の職員	
田中 智	開設法人代表	(株)まごころケア研究センター代表取締役社長
坪田 典子	管理者	療養通所介護まごころ管理者・看護師
(陪席)		
服部 功		(株)まごころケア研究センター常務取締役

3. 欠席者

氏名	構成区分	職名等
今津 俱子	利用者家族	

4. 会場 (株)まごころケア研究センター高砂2階会議室

5. 議事 (1) あいさつ (田中社長)

- ①介護保険法に年1回の開催を定められている運営推進会議を予定しましたところ、ご多忙にもかかわらずご出席いただきまして御礼を申し上げます。
- ②4月に予定されています介護保険制度・報酬改定につきましては療養通所については、定員の上限の引き上げ以外は、変更はありません。
- ③看護師を中心とした体制で医療的ケアを中心にサービスを提供しておりますが、スタッフの退職により、利用者数に制限をかけた形で1月より運営を行っています。今後は、介護保険の対象者の増に力をいれていきたいと考えています。

(2) 療養通所介護の制度・概要・利用状況等 (坪田管理者)

- ①療養通所介護は、難病やガン末期等の重症度の高い、医療と介護の両方のニーズを持つ方を対象にしている。
- ②既存のデイサービスを利用できない個別の看護・医療的ケアが必

要な方を対象にしている。

- ③そうした観点から訪問看護ステーションと一体的な運営を行っている。
- ④地域との連携や運営の透明性を確保するために運営推進会議を設置し、併せて安全サービス提供管理委員会も年2回開催している。
- ⑤既存のデイサービスとの違いは、利用者の自宅から自宅までが、サービス提供時間となっている。
- ⑥看護師の配置や個別の送迎、入浴について加算が設定され、医療面でのケアが重視されている。
- ⑦こういった性質上、看護師中心のスタッフ体制となっており、そのサポートを介護スタッフが行う形となっている。

### (3) 利用状況・課題報告～介護保険対象（坪田管理者）

- ①12月段階で介護保険対象の利用者は4名であったが、内2名が死亡・利用中止となっており、現視点で2名の利用となっている。
- ②いずれも重度の障害を持っておられ、吸入・吸引・注入・酸素・浣腸のケアを行っている。  
2名おられる。
- ③また、意思の疎通方法も文字盤利用や首の振るなどの方法となっている。

#### ④行っているケアー及び医療処置

- ㊦気管内吸引・口鼻腔吸引・吸入・低圧持続吸引・注入・内服（必要時頓服も）
- ㊧人工呼吸器チェック・パルスチェック・カフアシスト（Ns 2人で行う）
- ㊨必要時カニューレ交換・パルスの値、本人の観察を行い酸素を使用したり調整をする
- ㊩じょく創処置（入浴時に観察）・必要時導尿・浣腸・体交（個々に合わせてポジショニングする）
- ㊪座位保持（個々に合わせてポジショニングする）
- ㊫カット（自宅では困難または、経済的）
- ㊬入浴にNs 1～2人 介護職 1人で行う⇒ 入浴後はケアミックスで Ns と介護職 2人で行う
- ㊭調子の悪い方については、自宅でよりも療養室内で発見することも多く、こちらで主治医と連絡調整を行い、場合によっては、救急搬送を依頼する場合もある。  
（その場合、病院まで看護師が同乗し、病院で家族に引き継ぐことも多い）

#### ⑤課題

- ㊮たんの吸引が必要な利用者が多く、看護師だけでなく、介護スタッフにも資格取得と技能の向上が必要。
- ㊯一人の利用者が状態が悪くなると多数の看護師、スタッフが手をとられ、対応しなければならない。

㊟急に利用できる状況になっても介護保険の利用者の方は、他のサービスとの関係で利用が難しい。

㊟多く利用した場合、自己負担が重くなり、利用が難しい面も出てくる。

(4) サービス提供現場見学

## 6. 閉会

(記録 田中智 (株)まごころケア研究センター社長)